

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2. 調査の対象

- 小学校及び義務教育学校前期課程 第 6 学年（学校数：13校 874人参加）
- 中学校及び義務教育学校後期課程 第 3 学年（学校数：8校 859人参加）

3. 実施日

- 令和 6 年 4 月 18 日（木）

4. 調査の内容

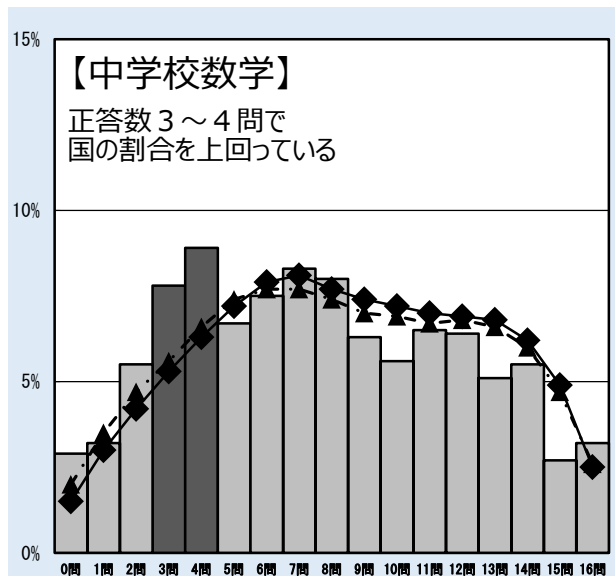
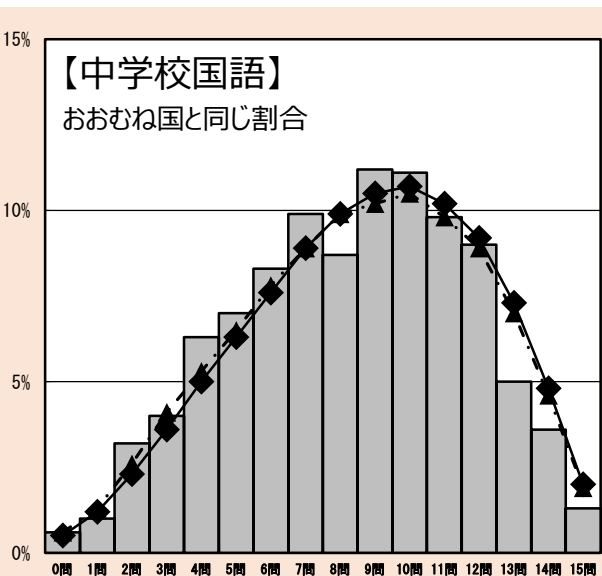
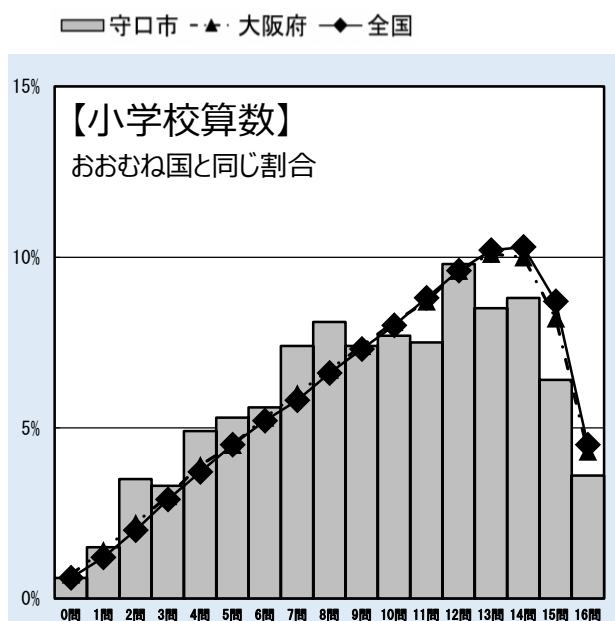
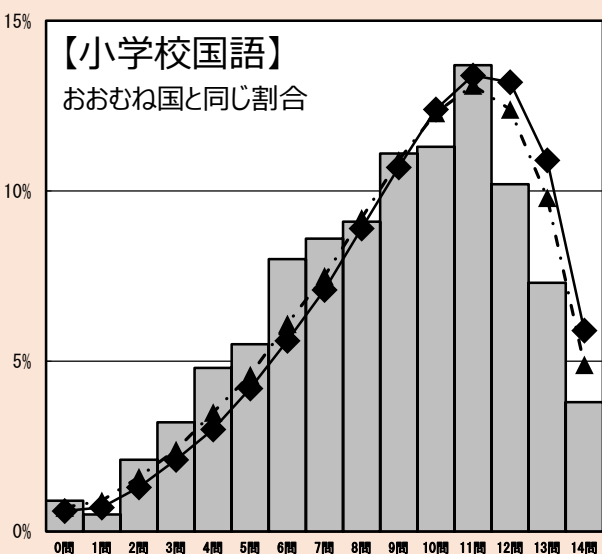
- 教科に関する調査
（小学校：国語、算数 / 中学校：国語、数学）
 - 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
（児童生徒に対する調査 / 学校に対する調査）
- ※質問調査は、すべてオンライン実施

教科に関する結果

**R1以降全国平均との差はほぼ 1 問以内であるものの、
差が縮まっていないことが課題**

平均正答数		守口市	大阪府 (公立)	全国 (公立)	府との差 (R5との比較)	全国との差 (R5との比較)	R5府 との差	R5全国 との差
小学校	国語（14問中）	8.7	9.2	9.5	-0.5 (0)	-0.8 (-0.1)	-0.5	-0.7
	算数（16問中）	9.5	10.0	10.1	-0.5 (-0.2)	-0.6 (-0.2)	-0.3	-0.4
中学校	国語（15問中）	8.3	8.6	8.7	-0.3 (0)	-0.4 (+0.2)	-0.3	-0.6
	数学（16問中）	7.7	8.2	8.4	-0.5 (0)	-0.7 (-0.1)	-0.5	-0.6

正答数分布グラフ（横：正答数、縦：割合）



問題別の主な状況

○成果 ●課題（ ）内は平均正答率

小学校

国語

○オンラインで交流する場面で、メモがどのように役立ったかを説明したものとして適切なものを選択する問題では、大阪府の平均正答率を上回った（62.4%）。

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する問題では、2つの条件に合わせて書くというやや難易度が高い問題に対し、51.0%の児童が正答できた。

●漢字を文の中で正しく使うことを問う問題（67.1%）、主語と述語との関係を捉えることを問う問題（55.8%）では、大阪府・全国の平均正答率を大きく下回った。

算数

○数量の関係を、□を用いた式（例：□+38=62）に表す問題では、87.4%の児童が正答できた。

●円グラフから割合を読み取る、基礎的な知識及び技能が求められる問題では、大阪府・全国の平均正答率を大きく下回った（75.1%）。

●箱にぴったり入る球の体積を求める問題（29.5%）や、速さ・道のり・時間の関係を考察し、説明する問題（24.0%）では、30%未満の正答率であり、大阪府・全国の平均正答率を大きく下回った。

中学校

国語

○自分の考えが伝わるよう表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題では、47.7%の生徒が正答を記述でき、大阪府の平均正答率を上回った。

●本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題（30.7%）や、文の成分の順序や関係についての正しい理解を問う問題（47.5%）では、大阪府・全国の平均正答率を大きく下回った。

数学

○正方形が回転移動したとき、回転前と回転後の正方形の対応する頂点を選択する問題では、大阪府・全国の平均正答率を上回った（68.4%）。

● $6x+2y=1$ を y について解く問題（41.2%）や、与えられたデータから最頻値を求める問題（66.3%）など、基礎的な知識及び技能が求められる問題では、大阪府・全国の平均正答率を大きく下回った。

今後の授業づくりで大切にしたいこと

国語

【課題】

- 事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫すること。
- 必要な情報を取り出し、情報と考えを結び付けて書くなど、複数の条件を満たして解答すること。

【授業づくり】

- 何が問われているか、課題を明確にし、条件にあった情報を収集し、文章等で表現するなどの言語活動を充実させることが重要。



算数・数学

【課題】

- 図形や速さなどについて、基礎的な知識及び技能を問題場面で活用したり、説明したりすること。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

【授業づくり】

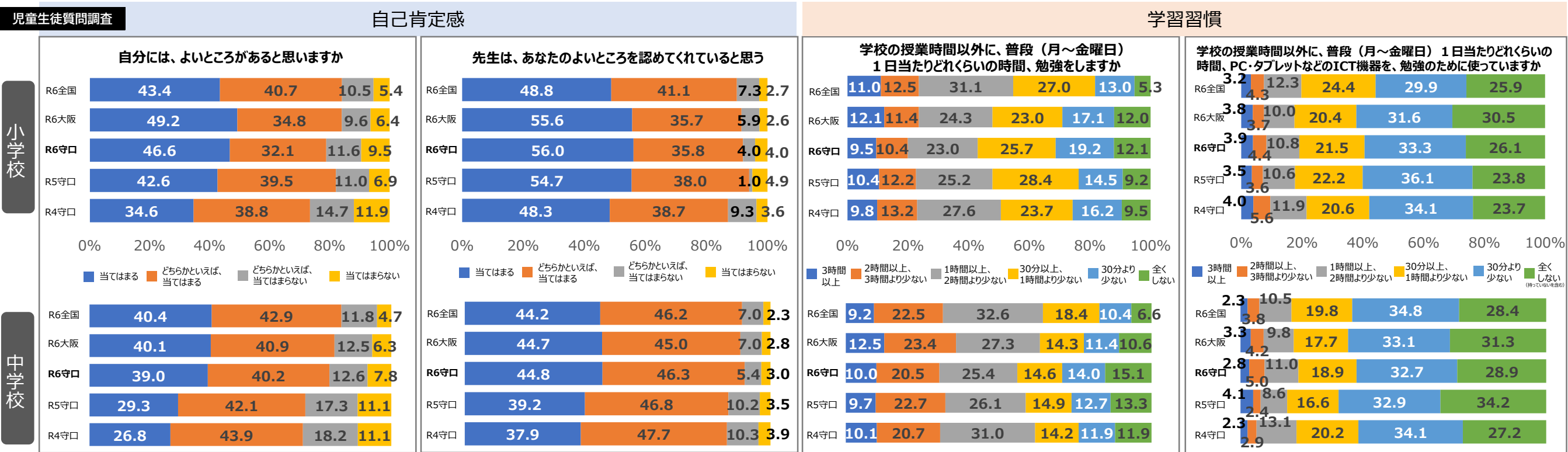
- 基礎的な知識及び技能の定着を大切にしつつ、それを日常の生活場面で活用、発揮できるよう、数値どうしの関係や理由を説明する活動を充実させることが重要。

①国語、算数・数学に共通して、複数の情報を収集し、指定された条件にあわせて表現する力の育成が求められている。これには、児童生徒自身が、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究的な学習過程を意識して、学習に取り組めるような授業づくりが必要。

②基礎的な知識及び技能の定着に対しては、児童生徒が、自分の理解度や自分にとって最適なペース、方法で学びを調整できるような学習が求められる。学習内容だけでなく、そのような「学び方」への指導も必要。

◆ICTの活用により、児童生徒が情報を収集し、整理して表現するなどの学習に取り組みやすくなることから、これらの活動をクラウド上で行うことで、友だちの考え方の参照や、意見の即時共有などが可能となる。
→①②を充実させるために、児童生徒がICT（クラウド）を活用して学びを進めることが極めて重要。

児童生徒質問・学校質問調査結果

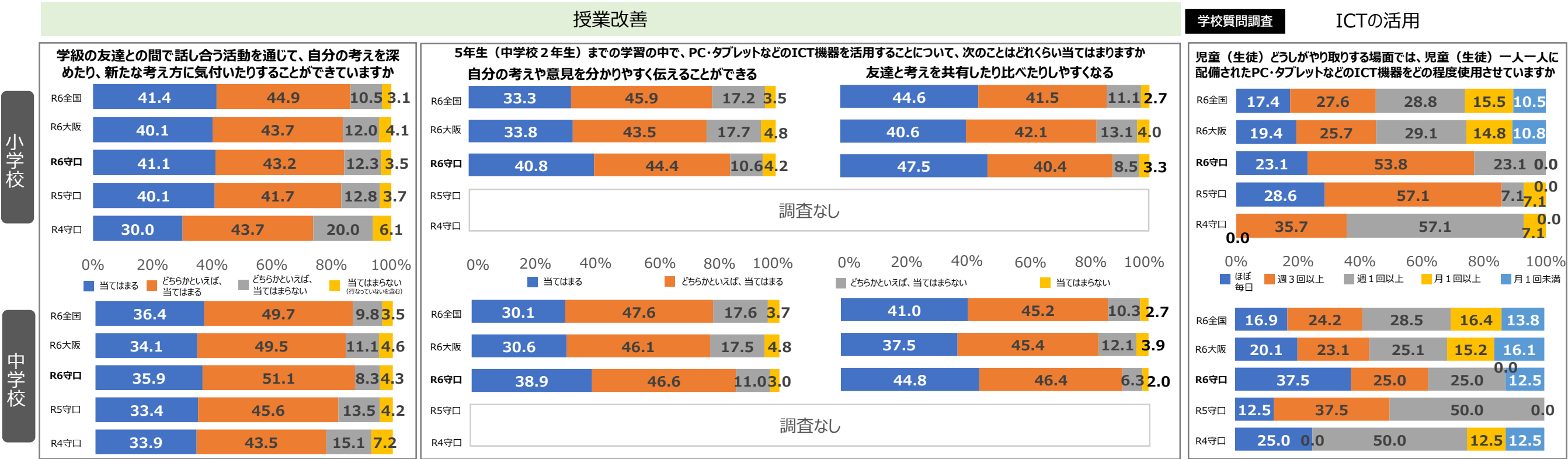


「自分には、よいところがある」と回答した割合が、年々増加している。今回は特に、中学校で大きく増加している。

「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した割合が増加し、小・中学校ともに、全国を上回った。教職員の児童生徒への丁寧な関わりが、結果に表れていると考えられる。

学校の授業以外の勉強時間は、小・中学校ともに減少している。自分にとって必要な学習を、自分のペースで進められるような、自らの学習を調整するための指導が必要である。

70%以上の児童生徒が、授業以外の学習でICT機器を活用している。学習用タブレット端末の持ち帰りが日常的になっており、授業と連続性のある家庭学習課題の出し方をあらためて検討する必要がある。



「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した割合が小・中学校とも増加し、中学校では全国を上回った。

ICT機器を活用することで、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した割合は、小・中学校とも全国を上回った。ICT（クラウド）を活用し、自分の考えを他者に伝えたり、共有したりすることは、授業改善の視点としても非常に重要である。

児童（生徒）がやりとりする場面でICT機器を「ほぼ毎日」活用していると回答した学校の割合は、小学校では減少し、中学校では大きく増加した。考えを伝え合うための重要な基盤として、今後もICT（クラウド）を活用した授業改善を進めていく。

※R5までの質問項目
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」